（第３種郵便物認可）

自前で新酒仕込み

人手不足で従業員が肩代わり

杜氏

コストもダウン

従業員だけによる新酒の仕込み作業＝松屋酒造

県内各地で新酒の仕込みシーズンを迎えたが、藤岡市の蔵元は杜氏（とうじ）を依頼せず、従業員による酒造りを始めた。杜氏の高齢化による人手不足、人件費の高騰などをにらみ、自前で杜氏を養成する試みだ。杜氏の不足をにらんだ対策としては、県工業試験場が吟醸酒（ぎんじょうしゅ）などを試験醸造するミニプラントを活用し、中小酒造メーカー向けの醸造機械開発に取り組んでいる。伝統を誇る酒造りの世界も、時代とともに変わっているようだ。

藤岡の蔵元　従業員による酒造りに挑戦

従来、新酒の仕込みとい えば、東北地方や新潟から杜氏を招き、半年かけてその年の酒造りを行うのが通例。松屋酒造も毎年、岩手県の南部から杜氏を呼んでいた。しかし、杜氏の確保が年々厳しくなるうえ、杜氏の人件費が製品の一〇％以上を占めるまでに高騰、圧迫を受けるまでに高騰、圧迫を受けるまでに高騰、圧迫を受け